

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	ここっとなico		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 15日 ～ R7年 3月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34	(回答者数) 29
○従業者評価実施期間	R7年 2月 15日 ～ R7年 3月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	年 月 日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画書作成にあたり、サービス担当者会議を開催し、児童発達支援管理責任者だけでなく職員が日頃の様子や強み・弱みをしっかり把握し児童の最善の利益となるようしっかりと意見を出し会議の場を作っている。	児童が施設にいない時間を上手く利用し会議をひらくことが出来る。 また、日々の療育の結果をしっかりと残り継続的な視点かつ次の目標を意識しつつ療育に当たっている。	日々の送迎時に保護者様からのニーズについて共有はしているが、その項目について管理できる用紙を作成。 個別支援計画書作成時の参考としておく。
2	モニタリング後の個別支援計画書については、児童発達支援管理責任者より職員間の共有があり、その個別支援計画書に基づきニーズに応じた支援を日々の療育にしっかりと反映している。	療育記録は時系列にて実施担当者にて結果や様子が記載されていて進捗の様子が他の職員からわかりやすくなっている。	療育記録は記載されているが、特に共有すべき事柄については日々の終礼にて共有されている。
3	・児童の特性に合わせた環境設定のもと療育に取り組んでいる。 ・保護者様同士のリアルな口コミや、相談支援さんとの連携により、たくさんの反響をいただけている。	・集中力や注意力が課題の児童に対し、集中しやすい場所や時間を考え療育を実施している。 ・幅広い色々な体験ができる、週末のイベントを企画・実施している。	スムーズに療育が実施できるよう見通しを立てた進め方や、ルーティンの習慣を守った声かけを行う。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営は現時点で十分である。	オープンして間もない施設となり、通所児童のための円滑な施設運営に力を入れていたため。	施設近隣公園での活動の際は、地域の方々にご挨拶し施設を知っていただく機会とする。
2	長期休みと施設で行っている休日のイベント以外は外遊びの機会を設けていない。	平日は、児童の来所時間や送迎時間が様々であり、全体を通しての年齢層も小学生以下と低いと、安全な人員を確保しての外出が難しい。	長期休みや休日のイベントにて外遊びや外出イベントの機会を積極的に設けたい。
3	支援終了後の職員間の共有を誰が見てもわかるよう書面にして残しているが口頭での共有を随時することができていない。	全体共有の時間が取れず各自確認する流れとなっている。	現在も特に共有すべき事柄については終礼にて共有しているが、それに加えて以前に加えて変化があった様子についても併せて共有することとする。